

令和4年度

(令和4年8月～令和5年7月)

環境経営レポート

「環境」「社会」「経済」と関連するSDGs



令和5年10月18日

 **ワイルド化成株式会社**
WILDCHEMICALS CO., LTD.

～ 目 次 ～

環境経営方針 P.1

I. 事業の概要 P.2

II. 組織図及び認証・登録範囲 P.3

III. 環境経営目標 P.4

IV. 環境経営計画 P.5～P.6

V. 環境経営目標の実績 P.7～P.9

VI. 今年度の取組実績 P.10

VII. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画 P.11～P.12

VIII. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無 P.13

IX. 代表者による全体評価 P.13

環境経営方針

私たちワイルド化成は、事業活動を通じて、住設部品メーカーを中心としたモノづくり企業へ「良品の安定供給」「モノづくりの後方支援」を主業として、社会の発展・豊かな暮らしを創造することに貢献します。

また、社会の一員として、持続可能な社会を作っていくために、自社のみの成長発展ではなく、サプライパートナーの後方支援を行い、生産性向上に努め、連携体と共に社会課題を解決していく企業に成長発展していきます。

その実践のためにも、自立した人物（ヒト）を育成していく土壌を育み、環境経営活動を通じて社会に貢献していくために、環境経営方針を定め、全社員で環境経営活動を推進していくものとします。

(1) 環境負荷の低減

- ①二酸化炭素（kg-CO₂）排出量の低減
 - ②水使用量の抑制
 - ③産業廃棄物の法令順守および廃棄物分別推進による廃棄量の削減
- に重点を置き、継続的な環境改善に取り組みます。

(2) 社会貢献活動(CSR)の推進

最適な生産管理・物流管理で環境負荷を低減するとともに、包装改善・簡易包装の推進・通函化推進により、サプライチェーン全体で出る廃棄物の減量に取り組みます。

(3) 環境経営活動の推進

全社員で環境活動意識向上に努めるとともに、環境マネジメントシステムを活用して、経営感覚を身に着けるよう取り組みます。

また、社内だけでなく、生産性向上及び廃棄物の減量に務めるよう、サプライパートナーとの連携を強化していきます。

(4) 環境に関する法規制等を遵守します。

事業活動で発生する産業廃棄物の適正処理に努めます。

令和4年7月25日
ワイルド化成（株） 代表取締役社長
宮崎 耕造

I 事業の概要

1. 事業所名 ワイルド化成株式会社
代表者氏名 代表取締役社長 宮崎 耕造
2. 所在地 〒800-0233 福岡県北九州市小倉南区朽網西 1-6-3
3. 環境管理責任者名 宮崎 耕造
連絡担当者名
連絡先 TEL : 093-474-1211 FAX : 093-474-1113
Eメールアドレス contact@wildkasei.com
4. 事業の内容 事業活動：住設部品の卸販売
※住設部品とは、水栓金具、電気温水器、手すり・福祉機器等
5. 事業の規模

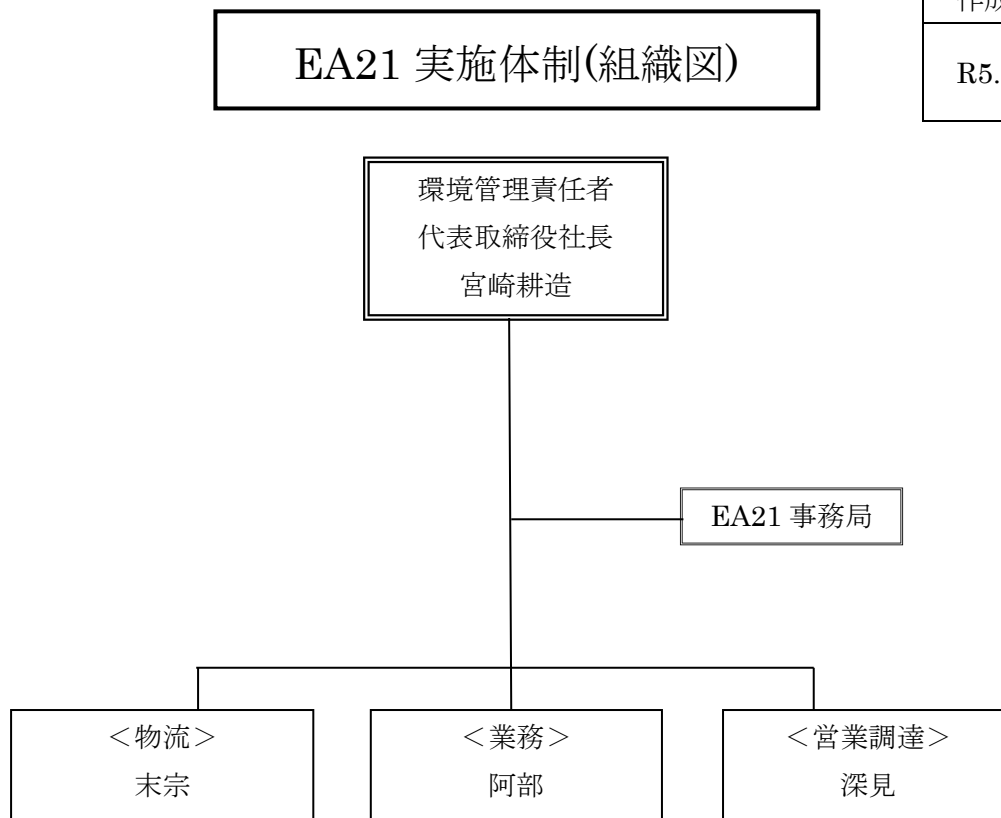
	単位	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
期間		H29.8~H30.7	H30.8~R1.7	R1.8~R2.7	R2.8~R3.7	R3.8~R4.7	R4.8~R5.7
売上高	百万円	534	538	601	587	628	648
従業員	人	21	22	23	23	24	23
床面積	m ²	867.66	956.37	956.37	956.37	956.37	956.37

S63年9月 片野新町にて創業
H23年5月 木山ビル107号69m²
木山ビル108号49m²を借用する
H24年5月 新事務所に移転する
事務所延面積201.88m²
作業所・倉庫延面積665.78m²

6. 事業年度 8月1日～翌年7月31日
7. 認証・登録範囲 本社および全事業活動
認証・登録番号 0000361

II 組織図及び認証・登録範囲（認証・登録範囲は以下の通り）

作成日	作成者
R5.1.6	宮崎



<役割分担表>

氏名	所属	役割・責任・権限・使命
宮崎耕造	環境管理責任者 代表取締役社長	全体の統括、環境方針の設定、全体の評価と見直し EA 活動に必要な指示を行う。 全体の把握/環境経営システムを構築・運用する
	EA21 委員会 (月次経営会議)	四半期振り返りの結果を 3 か月に 1 回 月次経営会議の際に行い、環境経営目標の達成状況及び活動計画の実行状況 PDCA サイクルを回す。
	EA21 事務局	EA21 文書及び記録類の作成・維持・管理 毎月の電気・水道などの使用量・廃棄物処理量の把握と記録の管理 産業廃棄物マニフェストの管理
	事務	毎月の電力・水・廃棄物（使用料・処理費用）の記録 事務所 5S 活動推進による探す手間の削減、 購入備品のムダの削減（コスト削減） 顧客向け商品の適正な在庫管理
	業務	5S 活動による業務改善（3M の排除）・生産性の向上 過剰在庫・不良品（廃棄物）の削減、通函化・簡易包装の推進 廃棄物のリデュース・リユース・リサイクル推進
	調達・配送	車燃料（ガソリン・軽油）消費量削減、エコドライブ推進、 配送ルート効率化、配送のムダの撲滅 配送車の毎日の洗車（節水）

※認証登録範囲は全社です

Ⅲ R4 年度環境経営目標及び中期環境経営目標

1) R3 年度は、電気代・燃料代の高騰が続き、環境負荷だけでなく経営上も、電気使用量・化石燃料の削減の必要性が高まっている。そのため、今年度は電気・電灯・化石燃料の削減の、社員一人ひとり意識付けを行うこととする。昨年水使用量の削減のように、積小為大（せきしょうだい）で、小さなことを積み重ねて実績を作っていく（SDGs・脱炭素の取組として）。また、新たに始めた外注輸送費の削減については、R3 年度に引き続き継続していくものとする。

2)水使用量については、R3 年度で取り組んだことを引き続き継続して、同様の水準で推移することとする。

3)廃棄物の削減については、売上規模が増加しても大きく廃棄量を増やしていない活動ができていることから、昨年度に引き続き、リユース・リデュースを続けるとともに、資源ごみはリサイクルすることや、自社内で廃棄物を減らすだけでなく、お客様で廃棄される後工程まで考えた廃棄物削減活動を進めていく（SDGs 12 つくる責任つかう責任）。

4) 5S 活動（品質改善活動）については、「お客様に良品を供給して喜びを創り出していく」ことを目的に、社員の自主的な改善活動が行われていたが、全社活動で行うため、新たに 5S 推進委員会を設けて、全社で 5S 活動に取り組むこととする。

R4年度以降の目標

№	環境目標	単位	R3年度	R4年度		R5年度		R6年度		備考
			R3.8~ R4.7	R4.8~ R5.7	趨勢比	R5.8~ R6.7	趨勢比	R5.8~ R6.7	趨勢比	
	売上目標	円	628,316,925	655,850,000	104.4%	685,000,000	109.0%	720,000,000	114.6%	削減目標
1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	32,178	33,251	103.3%	34,727	107.9%	36,500	113.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減
①	電灯使用量の削減	kWh	18,965	19,598	103.3%	20,469	107.9%	21,515	113.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減
②	電力使用量の削減	kWh	12,009	12,410	103.3%	12,961	107.9%	13,624	113.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減
③	ガソリン使用量の削減	L	3,166	3,272	103.3%	3,417	107.9%	3,592	113.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減
④	軽油使用量の削減	L	3,828	3,956	103.3%	4,131	107.9%	4,343	113.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減
⑤	LPG使用量の削減	kg	11.2	11.2	100.0%	11.2	100.0%	11.2	100.0%	維持
⑥	外注輸送費の削減	円	7,659,228	8,000,000	104.4%	8,300,000	108.4%	8,500,000	111.0%	
2	水使用量の削減	m ³	137.0	146.0	106.6%	146.0	106.6%	146.0	106.6%	維持
3	廃棄物の削減									
①	一般廃棄物（中間処理）の削減	kg	1,285	1,328	103.3%	1,387	107.9%	1,458	113.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減
②	紙資源ごみ（再生処理）の削減	kg	6,170	6,376	103.3%	6,659	107.9%	7,000	113.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減
③	廃プラスチック（産廃処理）の削減	kg	640	661	103.3%	691	107.9%	726	113.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減
4	5S活動（品質改善活動）の推進									
①	品質改善活動QC workshop振り返り	回	12	12		12		12		毎月1回
②	毎月の3S（整理・整頓・清掃）活動	回	12	12		12		12		毎月1回

注記：二酸化炭素排出量の計算に使用した購入電力の排出係数は、九州電力㈱の平成 28 年度係数 0.483kg-CO2/kWh を使用している。

社内での化学物質は使用が無いため、削減目標には掲げていない。

IV R4 年度 環境経営計画

R3 年度の環境経営計画を元に、より実行度を見えるように行動計画を具体化して、環境負荷の低減及び生産性の向上で業績向上につなげます。

R3 年度未達成項目（電灯・電力の削減）（ガソリン代・軽油量の削減）の強化を図ります。

1. 二酸化炭素排出量削減の為の取り組み目標と方法

1) 電気使用量の削減

- ・節電意識の向上
- ・昼休み及び不使用時の照明消灯の励行
- ・事務所 室温（夏 26℃ 冬 20℃）エアコン運転温度の設定
- ・作業場 室温（夏 25℃ 冬 20℃）エアコン運転温度の設定
- ・クールビズ（5月～9月）、ウォームビズの励行（11月～3月）
- ・定時時間での終業
- ・3ヶ月ごとのエアコンフィルター清掃
- ・未使用部屋・電気消灯・エアコンストップの管理
- ・週末・長期休暇前にコンセントを抜く

2) ガソリン・軽油の使用量削減

- ・エコドライブ実践、アイドリングストップ励行
- ・配送ルート効率化
- ・エコカーへの乗り換え（ハイエース⇒ハイブリットカー）

3) LPG 使用量の削減

- ・夏季（4月～10月）のガス元栓を閉める

2. 総排水量の削減

- ・節水意識の向上
- ・社用車・フォークリフトの清掃はバケツに汲み置きの水で行う
- ・手洗い時、止水励行

3. 廃棄物の削減

- ・一般廃棄物の削減
資源ごみの分別による一般廃棄物の削減
- ・紙廃棄物の削減
購入品の簡易包装化
紙資材（段ボール・緩衝材）のリユース
会議資料などの電子化・ペーパーレス化
紙印刷物の不良在庫削減（適正な在庫管理）
- ・通函化による包装資材削減
- ・購入品の納入荷姿の改善
- ・塗装品修正数量の削減
- ・産業廃棄物（廃プラスチック）の削減
- ・産業廃棄物廃棄量の実績把握、マニフェストの管理・保管

4. 5S 活動の推進

- ・5S 活動（品質改善活動）
- ・全社での 5S 活動（整理・整頓）

5. 外注輸送費の削減（重点管理）

- ・宅配便（小倉運送・ヤマト運輸）の小口まとめ発送
- ・外注輸送熊本便積載効率アップ 年 10 回減便

6. 環境関連法規の順守

- ・フロン排出抑制法に従い定期的なエアコン点検の実施

7. BCP 防災訓練の実施（9月～11月）

1. 二酸化炭素排出量の削減

No.	取り組み項目	No.	活動項目	R3.8月 ~10月	11月 ~R4.1月	2月 ~4月	5月 ~7月	担当者
1	電気使用量の削減	①	節電意識の向上（表示・掲示物）	←			→	大嶋
		②	昼休み及び不使用時の照明消灯の励行	←			→	大嶋
		③	事務所 室温（夏26℃、冬20℃） エアコン運転温度の設定	←			→	大嶋
		④	作業場 室温（夏25℃、冬20℃） エアコン運転温度の設定	←			→	神菊
		⑤	クールビズ推奨 5~9月、ウォームビズ推奨 11月~3月	←	←	→	←	伊藤
		⑥	定時時間内での終業	←			→	伊藤
		⑦	3か月ごとのエアコンフィルター清掃	←			→	黒田
		⑧	未使用部屋・電気消灯・エアコンストップの管理	←			→	大嶋 神菊
		⑨	帰宅時に消灯・電源OFF確認	←			→	安永
		⑩	週末・長期休暇前に コンセント抜く	←			→	伊藤
2	ガソリン・軽油使用量の削減	①	エコドライブの実践、アイドリングストップ励行	←			→	末宗
		②	配送ルート効率化	←			→	末宗
		③	エコカーへの乗り換え（ハイエース⇒ハイブリットカー）	←			→	西野
3	LPG使用量の削減	①	夏季（4月~10月）のガス元栓を閉める	←		←	→	伊藤
4	外注輸送費の削減	①	宅配便（小倉運送・ヤマト運輸）の小口まとめ発送	←			→	神菊
		②	外注輸送熊本便積載効率アップ 年10回減便	←			→	末宗

2. 水使用量の削減

No.	取り組み項目	No.	活動項目	R3.8月 ~10月	11月 ~R4.1月	2月 ~4月	5月 ~7月	担当者
1	節水活動	①	節水意識の向上	←			→	伊藤
		②	社用車・フォークリフトの清掃はバケツに汲み置きの水で行う	←			→	西野
		③	手洗い時、止水励行	←			→	大嶋
		④	トイレ（小・大）使い分け	←			→	大嶋
		⑤	トイレ擬音装置（音姫）使用	←			→	大嶋

3. 廃棄物の削減

No.	取り組み項目	No.	活動項目	R3.8月 ~10月	11月 ~R4.1月	2月 ~4月	5月 ~7月	担当者
1	紙廃棄削減	①	購入品の簡易包装化	←			→	西野
		②	紙資材（段ボール・緩衝材）のリユース	←			→	阿部
		③	会議資料などの電子化、ペーパーレス化	←			→	伊藤
		④	紙印刷物の不良在庫削減（適正な在庫管理）	←			→	西野
2	一般廃棄物の削減	①	資源ごみの分別による一般廃棄物の削減	←			→	大嶋 神菊
3	通函化推進	①	通函化により包装資材削減	←			→	西野
4	プラスチックごみの削減	①	緩衝材としての再利用（リユース）	←			→	阿部
5	塗装品修正数量の削減	①	生地品の品質向上による塗装修正削減	←			→	日野
6	産業廃棄物の削減	①	プラスチック類の廃棄物削減	←			→	安永

4. 5S活動（品質改善活動）

No.	取り組み項目	No.	活動項目	R3.8月 ~10月	11月 ~R4.1月	2月 ~4月	5月 ~7月	担当者
1	5S活動（品質改善活動）	①	QC workshopでのCA	←			→	日野 安永
2	5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）	②	全社での5S活動（整理・整頓）	←			→	神菊 阿部

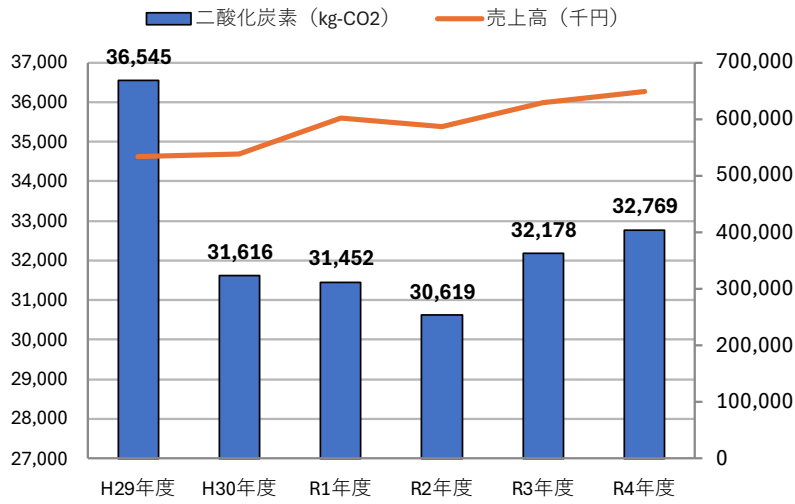
V 環境経営目標の実績と達成率

環境目標項目	年度	R3年度計	R4年度計
	期間	R3.8~R4.7	R4.8~R5.7
1)二酸化炭素排出量 (目標1%削減) (単位: kg-CO2)	目標	32,620	33,251
	実績	32,178	32,769
	目標達成率%	101%	101%
1-①)電灯使用量の削減 (目標1%削減)	目標	19,269	19,598
	実績	18,965	19,338
	目標達成率%	102%	101%
1-②)電力使用量の削減	目標	11,192	12,410
	実績	12,009	11,636
	目標達成率%	93%	107%
1-③)ガソリン使用量の削減	目標	2,867	3,272
	実績	3,166	3,828
	目標達成率%	91%	85%
1-④)軽油使用量の削減	目標	4,351	3,956
	実績	3,828	3,482
	目標達成率%	114%	114%
1-⑤)LPG使用量の削減	目標	12.8	11.2
	実績	11.2	7.9
	目標達成率%	115%	142%
1-⑥)外注輸送費の削減	目標	¥ 8,000,000	¥ 8,000,000
	実績	¥ 7,659,228	¥ 7,660,673
	目標達成率%	104%	104%
2)水使用量の削減 (目標1%削減) (単位: m ³)	目標	146.0	146.0
	実績	137.0	130.0
	目標達成率%	107%	112%
3-①) 一般廃棄物の削減 (単位: kg) (目標1%削減)	目標	1,355.4	1,327.9
	実績	1,285.0	1,185.0
	目標達成率%	105.5%	112.1%
3-②) 紙廃棄物 (古紙) の削減 (単位: kg) (目標1%削減)	目標	6,550.2	6,376.0
	実績	6,170.0	6,160.0
	目標達成率%	106.2%	103.5%
3-③) 廃プラスチック 産業廃棄物の削減 (単位: kg)	目標	1,160.3	661.4
	実績	640.0	660.0
	目標達成率%	181.3%	100.2%
4-②) 5S活動 (品質改善活動) 毎月の3S (整理・整頓・清掃) 活動 (単位: 回)	目標	12.0	12.0
	実績	12.0	12
	目標達成率%	100%	100%

注記: 二酸化炭素排出量の計算に使用した購入電力の排出係数は、九州電力㈱の平成28年度調整後排出係数 0.483 kg-CO2/kWh を使用した。

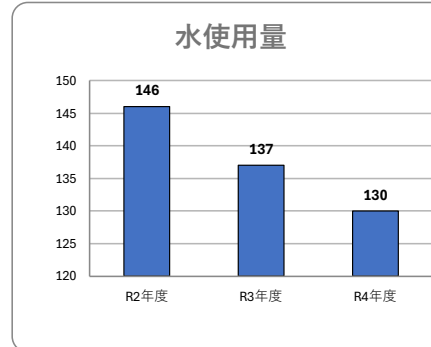
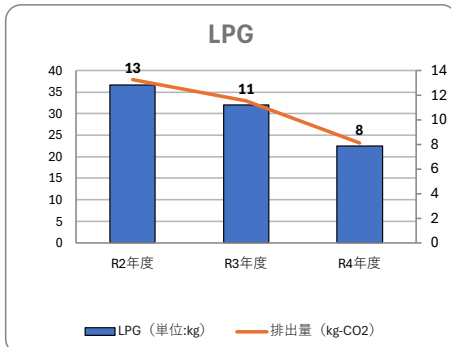
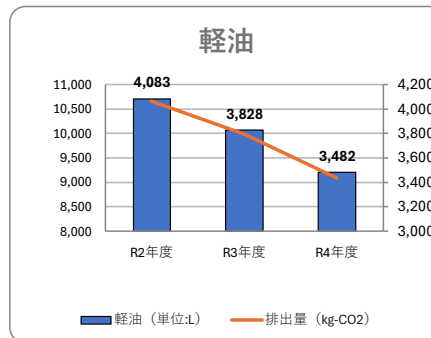
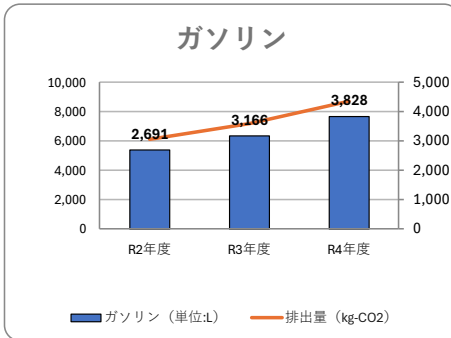
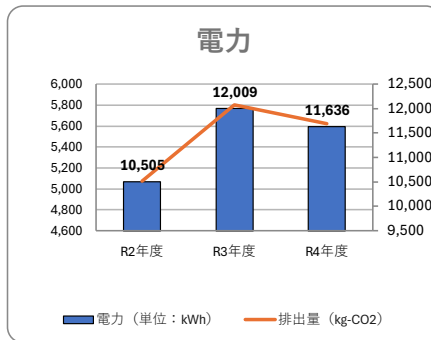
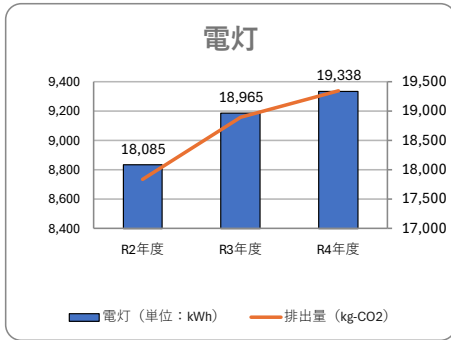
<売上高と二酸化炭素排出量の推移（H29年～R4年）>

売上高と二酸化炭素排出量の推移

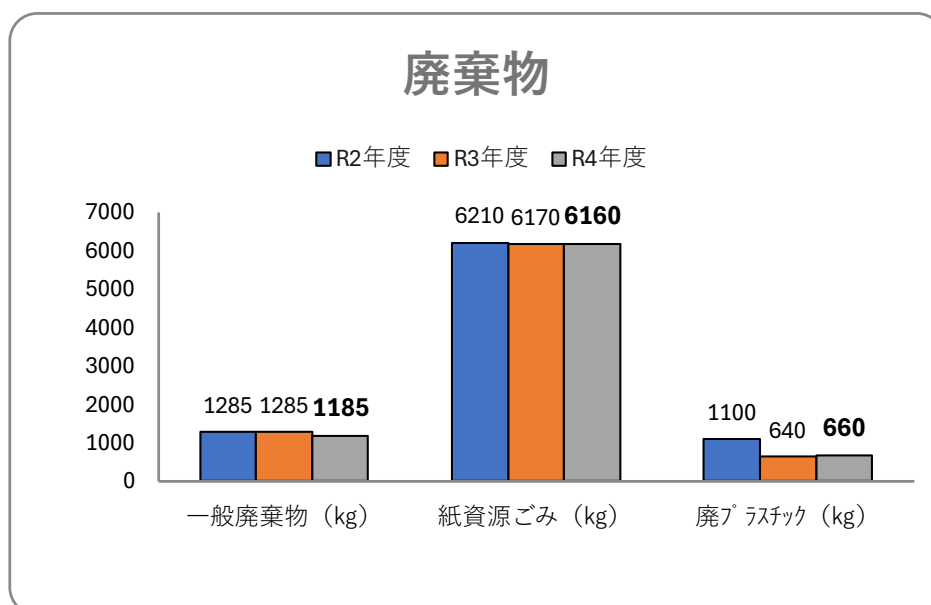


	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
二酸化炭素(kg-CO2)	36,545	31,616	31,452	30,619	32,178	32,769
売上高(千円)	533,939	538,363	601,117	586,844	628,317	648,691

<環境目標ごとの推移（R2年～R4年）>



< 廃棄物の推移 (R2年～R4年) >



<実績・達成率評価>

二酸化炭素排出量は目標達成（101%目標達成）できているが、昨年度より増えている。今年度新たに、ハイエース（軽油車）をエコカー（ガソリン車）に乗り換えたことで、軽油の使用量は大きく目標達成（114%）で昨年実績よりも減らせているが、昨年度に続いてガソリン車が1台増えたこと、新規事業（研磨）立ち上げのため、遠方（広島）への出張（車）が増えたため、ガソリン使用量は目標未達（85%）で昨年実績よりも増えている。

今年度中に、外注輸送費の値上がりもあったが、出荷個数をまとめたことや、配送効率（積載効率）を向上させたことで、外注輸送費は目標達成（104%目標達成）で、昨年度同等に収められた。

水使用量が下がっているのは、駐車場清掃にホースで散水していたものをバケツで汲んで毎日の地道な努力で削減できている（積小為大）。

廃棄物の排出量については、出荷が減ったのに合わせて、商品仕入を抑えることで、廃棄物を減らせたことと、大きな改廃がなく、比較的リピート受注が落ち着いていたことが要因である。

VI R4年度 取組実績

1. 二酸化炭素排出量の削減

No.	取り組み項目	No.	活動項目	担当者	評価
1	電気使用量の削減	①	節電意識の向上（表示・掲示物）	大嶋	○
		②	昼休み及び不使用時の照明消灯の励行	大嶋	○
		③	事務所 室温（夏28℃、冬18℃） エアコン運転温度の設定	神菊	△
		④	作業場 室温（夏28℃、冬18℃） エアコン運転温度の設定	神菊	△
		⑤	クールビズ推奨 5～9月、ウォームビズ推奨 11月～3月	伊藤	○
		⑥	定時時間内での終業	伊藤	○
		⑦	エアコンフィルター清掃	神菊	○
		⑧	未使用部屋・電気消灯・エアコンストップの管理	神菊	○
		⑨	帰宅時に消灯・電源OFF確認	安永	○
		⑩	週末・長期休暇前に コンセント抜く	神菊	○
2	ガソリン・軽油使用量の削減	①	エコドライブの実践、アイドリングストップ励行	末宗	○
		②	配送ルート効率化	末宗	○
		③	エコカーへの乗り換え（ハイエース⇒ハイブリットカー）	西野	○
3	LPG使用量の削減	①	夏季（4月～10月）のガス元栓を閉める	伊藤	○
4	外注輸送費の削減	①	宅配便（小倉運送・ヤマト運輸）の小口まとめ発送	神菊	○
		②	外注輸送熊本便積載効率アップ 年10回減便	末宗	○

2. 水使用量の削減

No.	取り組み項目	No.	活動項目	担当者	評価
1	節水活動	①	節水意識の向上	伊藤	○
		②	社用車・フォークリフトの清掃はバケツに汲み置きの水で行う	西野	○
		③	手洗い時、止水励行	大嶋	○
		④	トイレ（小・大）使い分け	大嶋	○
		⑤	トイレ擬音装置（音姫）使用	大嶋	○

3. 廃棄物の削減

No.	取り組み項目	No.	活動項目	担当者	評価
1	紙廃棄削減	①	購入品の簡易包装化	西野	○
		②	紙資材（段ボール・緩衝材）のリユース	阿部	○
		③	会議資料などの電子化、ペーパーレス化	伊藤	○
		④	紙印刷物の不良在庫削減（適正な在庫管理）	西野	○
		⑤	ペーパータオル使用量の把握	伊藤	○
2	一般廃棄物の削減	①	資源ごみの分別による一般廃棄物の削減	神菊	○
3	通函化推進	①	通函化により包装資材削減	西野	○
4	プラスチックごみの削減	①	緩衝材としての再利用（リユース）	阿部	○
5	塗装品修正数量の削減	①	生地品の品質向上による塗装修正削減	日野	○
6	産業廃棄物の削減	①	プラスチック類の廃棄物削減	安永	○

4. 5S活動（品質改善活動）の推進

No.	取り組み項目	No.	活動項目	担当者	評価
1	品質改善活動	①	QC workshopでのCA	日野 安永	△
2	5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）	②	全社での5S活動（整理・整頓）	神菊 阿部	○

◎：優秀 ○：良好 △：もう少し努力要 ×：努力要

VII 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

<環境経営目標>

1) R4年度は、電気代・燃料代の高騰が続き、環境負荷だけでなく経営上も、電気使用量・化石燃料の削減の必要性が高まっている。そのため、今年度は電気・電灯・化石燃料の削減の、社員一人ひとり意識付けを行うこととする。昨年水使用量の削減のように、積小為大（せきしょういだい）で、小さなことを積み重ねて実績を作っていく（SDGs・脱炭素の取組として）。また、新たに始めた外注輸送費の削減については、R4年度に引き続き継続していくものとする。

2)水使用量については、R4年度で取り組んだことを引き続き継続して、同様の水準で推移することとする。

3)廃棄物の削減については、売上規模が増加しても大きく廃棄量を増やしていない活動ができていることから、昨年度に引き続き、リユース・リデュースを続けるとともに、資源ごみはリサイクルすることや、自社内で廃棄物を減らすだけでなく、お客様で廃棄される後工程まで考えた廃棄物削減活動を進めていく（SDGs 12 つくる責任つかう責任）。それに加えて、商品仕入ロットの適正化や、出荷量が減っている商品の仕入れロット見直しなど、在庫削減に努める。

4) 5S活動（品質改善活動）については、「お客様に良品を供給して喜びを創り出していく」ことを目的に、社員の自主的な改善活動が行われていたが、全社活動で行うため、新たに5S推進委員会を設けて、全社で5S活動に取り組むこととする。

R5年度以降の目標

№	環境目標	単位	R4年度			R5年度			R6年度			R7年度			備考
			R4.8~ R5.7	R5.8~ R6.7	趨勢比	R5.8~ R6.7	趨勢比	R6.8~ R7.7	趨勢比	R6.8~ R7.7	趨勢比	削減目標			
	売上目標	円	648,691,620	665,000,000	102.5%	700,000,000	107.9%	730,000,000	112.5%						
1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	32,769	33,263	101.5%	35,012	106.8%	36,512	111.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減					
	① 電灯使用量の削減	kWh	19,338	19,626	101.5%	20,659	106.8%	21,544	111.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減					
	② 電力使用量の削減	kWh	11,636	11,809	101.5%	12,431	106.8%	12,964	111.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減					
	③ ガソリン使用量の削減	L	3,828	3,885	101.5%	4,089	106.8%	4,265	111.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減					
	④ 軽油使用量の削減	L	3,482	3,534	101.5%	3,720	106.8%	3,879	111.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減					
	⑤ LPG使用量の削減	kg	7.9	10.0	127.1%	10.0	127.1%	10.0	127.1%	維持（R2～R4年平均）					
	⑥ 外注輸送費の削減	円	7,660,673	7,774,733	101.5%	8,183,929	106.8%	8,534,669	111.4%						
2	水使用量の削減	m ³	130.0	137.0	105.4%	137.0	105.4%	137.0	105.4%	維持（R2～R4年平均）					
3	廃棄物の削減														
	① 一般廃棄物（中間処理）の削減	kg	1,185	1,203	101.5%	1,266	106.8%	1,320	111.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減					
	② 紙資源ごみ（再生処理）の削減	kg	6,160	6,252	101.5%	6,581	106.8%	6,863	111.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減					
	③ 廃プラスチック（産廃処理）の削減	kg	660	670	101.5%	705	106.8%	735	111.4%	売上目標に応じた設定値から毎年1%削減					
4	5S活動（品質改善活動）の推進														
	① 品質改善活動QC workshop振り返り	回	12	12		12		12		毎月1回					
	② 毎月の3S（整理・整頓・清掃）活動	回	12	12		12		12		毎月1回					

注記：二酸化炭素排出量の計算に使用した購入電力の排出係数は、九州電力㈱の平成28年度係数 0.483 kg-CO2/kWh を使用している。

社内での化学物質は使用が無いため、削減目標には掲げていない。

<環境経営計画>

R4 年度の環境経営計画を元に、より実行度を見えるように行動計画を具体化して、環境負荷の低減及び生産性の向上で業績向上につなげます。

R4 年度未達成項目（電灯・電力の削減）（ガソリン代・軽油量の削減）の強化を図ります。

1. 二酸化炭素排出量削減の為の取り組み目標と方法

1) 電気使用量の削減

- ・節電意識の向上
- ・昼休み及び不使用時の照明消灯の励行
- ・事務所 室温（夏 26℃ 冬 20℃）エアコン運転温度の設定
- ・作業場 室温（夏 25℃ 冬 20℃）エアコン運転温度の設定
- ・クールビズ（5月～9月）、ウォームビズの励行（11月～3月）
- ・定時時間での終業
- ・3ヶ月ごとのエアコンフィルター清掃
- ・未使用部屋・電気消灯・エアコンストップの管理
- ・週末・長期休暇前にコンセントを抜く

2) ガソリン・軽油の使用量削減

- ・エコドライブ実践、アイドリングストップ励行
- ・配送ルート効率化

3) LPG 使用量の削減

- ・夏季（4月～10月）のガス元栓を閉める

2. 総排水量の削減

- ・節水意識の向上
- ・社用車・フォークリフトの清掃はバケツに汲み置きの水で行う
- ・手洗い時、止水励行
- ・社内広場の清掃活動時は、バケツの汲み置きの水で行う

3. 廃棄物の削減

・一般廃棄物の削減

資源ごみの分別による一般廃棄物の削減

・紙廃棄物の削減

購入品の簡易包装化

紙資材（段ボール・緩衝材）のリユース

会議資料などの電子化・ペーパーレス化

紙印刷物の不良在庫削減（適正な在庫管理）

- ・通函化による包装資材削減
- ・塗装品修正数量の削減
- ・産業廃棄物（廃プラスチック）の削減
- ・産業廃棄物廃棄量の実績把握、マニフェストの管理・保管 4.5S 活動の推進

4. 5S 活動の推進

- ・5S 活動（品質改善活動）
- ・全社での 5S 活動（整理・整頓）

5. 外注輸送費の削減

- ・宅配便（小倉運送・ヤマト運輸）の小口まとめ発送
- ・外注輸送熊本便積載効率アップ 年 10 回減便

6. 在庫削減

- ・新規見積時の商品仕入ロット見直し（改廃時の廃棄ロス防止）
- ・出荷量が減っている商品の商品仕入ロット見直し

7. 環境関連法規の順守

- ・フロン排出抑制法に従い定期的なエアコン点検の実施

8. BCP 防災訓練の実施（9月～11月）

VIII 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

- ・環境関連法規等の遵守状況をチェックした結果、運用と実績で問題は見られなかった。
- ・関係当局・地域住民からの違反などの指摘はなかった。

確認日	承認者	確認者
R4.8.3		

環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況のチェック結果

法律名等	適用対象 施設、設備、作業等	適用内容、規制基準など	定期的確認	
			遵守状況	判定
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	対象物 事業系一般廃棄物	収集・運搬・処分は許可の受けた一般廃棄物収集・運搬業者並びに一般廃棄物処分業者に委託すること 市町村以外の他人に委託しないこと	8/3 確認	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	対象物 産業廃棄物の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・飛散の防止対策を講じること ・見やすい場所に掲示板を設けること(大きさ:60cm×60cm以上) (表示:保管する廃棄物の種類、管理者、連絡先等) ・事業場の外に保管するときは、予め都道府県知事に届出すること。 ・非常災害の場合は、保管開始後14日以内に届出すること。 	8/3 確認	○
		<ul style="list-style-type: none"> ・管理票の交付(発行):廃棄物の種類ごと、運搬先ごと ・管理票の記載事項:廃棄物の種類、荷姿、最終処分を行なう所在地など ・交付から90日以内(運搬、処理処分)及び180日以内(最終処分)に管理票の写しが未返却の場合、照合確認とともに知事に届ける。・管理票写しの保管:5年間保存。 	8/3 確認	○
		管理票の交付等の状況の報告。毎年6月30日までに前年度1年間の状況報告。	6/30 管理票の交付確認をした。	○
		<ul style="list-style-type: none"> ・収集運搬業者及び処分業者との書面による委託契約 ・委託契約書には許可書の写しの添付 	委託契約を更新	○
		<ul style="list-style-type: none"> ・委託契約書の保管:5年間保存 	8/3 確認	○
フロン排出抑制法	業務用エアコン、冷凍冷蔵機器の管理者(使用者)	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な場所への設置。設置する環境維持保全を実施。 ・全ての第1種特定製品について簡易点検を3か月に1回以上実施。 ・圧縮機定格出力7.5kW以上～50kW未満は、専門知識者による定期点検を3年に1回以上実施。 ・50kW以上は、専門知識者による定期点検を1年に1回以上実施。 ・点検・修理、冷媒充填・回収等の履歴を記録。廃棄後3年間保管。 ・1000t-CO2以上の漏洩は届出が必要。 	8/3 確認	○

IX 代表者による全体の評価と見直し・指示

R4年度は、原材料価格高騰による仕入原価アップ、建築コスト増大および物価高騰による商品出荷数・受注の落ち込みの中で、付加価値をどうやって増やすか、顧客の困りごとを解決するかに努めたことにより、増収の結果を得られたが、仕入原価アップ分を十分に価格転嫁できずに、減益の結果で終わった。また、社内委員会活動として行っていたEA21活動も、主要メンバーの退職により、新たな取り組みや、活動振り返り(CA)が不十分に終わった。

その中で良かったこととして、エコアクション21以外のBCP活動との連携で、委員会活動が経営に繋がっていることの周知を図ることが、少しずつ経営意識を持つ社員が増えてきている。

材料高騰、燃料代高騰、電気代高騰、外注輸送費高騰とコストは増大していく中で、事業継続していくためにも、環境活動を、環境経営活動として、業績目標(KGI)を達成するための、KPIを各部署連携して、自分事にしていくことが必要になっている。

特に、出荷量が減っている中での、商品仕入・在庫調整が来年度の重要な経営課題になるため、各部署の繋がりと重なりを強化して、経営参画の意識を高めてください。